

商店街名：東栄町商工会【東栄町、平成 29 年度指定】

1 活性化モデル商店街の概要

●キャッチフレーズ

近くへ・便利に—いきいき生活応援

◎商店街の将来ビジョン

【現状と課題】

- ・当地では、若者の流出による過疎化、近隣都市での大規模商業施設の立地や道路網の整備などによる地元商店の集客力の低下に、過疎化による後継者不足が加わり、商店数が減少の一途をたどっている。そのため、商店の再生などを行うとともに、にぎわいの創出に向けた取り組みを行っていく必要がある。
- ・また、高齢化に伴い、買い物に行くことができない高齢者が増えているため、買い物弱者対策も必要となっている。

【対策】

- ・東栄町商工会で移動販売事業を実施する。今後生活する上で必要となる商品を販売する店舗がなくなる可能性もあるため、移動販売事業を活用し、町民全体で各店舗を支援していく。

◎具体的に取り組む事業内容

○移動販売事業（29 年度～32 年度）

移動販売車が週 4～5 日間程度、比較的店舗が集中する地区以外を重点的に巡回し、食材や飲料を始めとする町内商店の商品を販売する。

2 活性化モデル商店街の実績・成果等

◎商店街の将来ビジョンの実績

計画当初よりも高齢者人口割合が増加していることに加え、町内総人口の減少、消費者の地域外流出が止まらず後継者不足の問題も顕在化してきており、東栄町の商工業事業者を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある。高齢者の増加に伴い買物弱者が増加しており、地域の要望に合わせた運行ルートの見直しや雨天時に宅配を行う等、買物弱者支援に取り組んでいる。また、通常2人で行う移動販売を、試験的に1人で行い経費削減に取り組む等、移動販売事業の収益化に向けた取り組みも行っている。事業の実施効果としては、年間売り上げ及び平均客単価の増加から、一定の効果が出ていると考える。

◎事業実績

○移動販売事業（H29年度～R2年度）

移動販売車による移動販売

◎事業の効果

げんき商店街推進事業に採択されたことによって移動販売事業が継続でき、地域の需要に合わせる事ができてきたため、個店の売り上げ増加につながった。

◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用、手指消毒の徹底に取り組んだ。

◎その他の成果

- ・平成27年11月の東日新聞で記事に取り上げられ東栄町の買物弱者支援を広く知らせることができた。
- ・他市町村から問い合わせが3件ほどあり、他の市町村と類似性の少ない中山間地で行う移動販売事業のモデルとして成果を示すことができた。
- ・経済産業省の買物弱者支援において国・地方自治体による買物弱者支援策で紹介されている。



(移動販売車による移動販売)